

令和5年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和6年3月31日

なにわ歯科衛生専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1	
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	2	
1-1 理念・目的・育成人材像	3	
基準 2 学校運営	4	
2-2 運営方針.....	5	
2-3 事業計画.....	6	
2-4 運営組織.....	7	
2-5 人事・給与制度.....	8	
2-6 意思決定システム	9	
2-7 情報システム	10	
基準 3 教育活動	11	
3-8 目標の設定	12	
3-9 教育方法・評価等	13	
3-10 成績評価・単位認定等	14	
3-11 資格・免許の取得の指導体制	15	
3-12 教員・教員組織	16	
基準 4 学修成果	17	
4-13 就職率	18	
4-14 資格・免許の取得率	19	
4-15 卒業生の社会的評価	20	
基準 5 学生支援	21	
5-16 就職等進路	22	
5-17 中途退学への対応	23	
5-18 学生相談	24	
5-19 学生生活	25	
5-20 保護者との連携	26	
5-21 卒業生・社会人	27	
基準 6 教育環境	28	
6-22 施設・設備等	29	
6-23 学外実習、インターンシップ等	30	
6-24 防災・安全管理	31	
基準 7 学生の募集と受入れ	32	
7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	33	
7-26 入学選考	34	
7-27 学納金	35	
基準 8 財務	36	
8-28 財務基盤	37	
8-29 予算・収支計画	38	
8-30 監査	39	
8-31 財務情報の公開	40	

基準9 法令等の遵守..... 41

9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	42
9-33 個人情報保護	43
9-34 学校評価.....	44
9-35 教育情報の公開.....	45

基準10 社会貢献・地域貢献..... 46

10-36 社会貢献・地域貢献	47
10-37 ボランティア活動	48

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和5年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>本校は、医療人という社会的にも責務・信頼が大きい人材を育成する責任を担っている。そのためにも高度な知識と技能を身に付け、礼儀作法や躾教育を重んじた人間性豊かな歯科衛生士の育成に努めている。</p> <p>また、学生を指導する立場にある教職員についても、人間性・社会性や技能力を身に付けるべく、内部教育を重視している。</p> <p>教育目標として「知識、技術、実践力の修得」「人間性豊かな人材の育成」「社会福祉への貢献」を掲げ、取り組みを行っている。</p>	<p>高齢化社会や疾病の多様化に伴い、臨床現場でのニーズや業務内容の深化が見られることから、知識力・技術力の向上を行うとともに、優れた人間性を備えた人材の育成を目指す。</p>	<p>企業等との連携により、主に臨床現場での業務を反映したカリキュラムを取り入れることで、より実践的な内容を身に付ける機会を設けている。</p>	<p>カリキュラムの編成が複雑化しているが、極力多様な内容を取り入れ、人材育成に活かせるように努める。</p>

最終更新日付

2024年3月31日

記載責任者

篠田 晃一

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、昭和 57 年 11 月に学校法人大阪産業大学により「大阪産業大学附属歯科衛生士学院（のちに大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校）」として設立、厚生大臣から歯科衛生士養成所指定を受け、昭和 58 年 4 月に開校となった。</p> <p>平成 19 年 5 月には学校法人平成医療学園と協力提携を締結し、平成 21 年 4 月に経営を移管した。この際に校名を「なにわ歯科衛生専門学校」に改称し、平成 22 年 4 月には大阪市福島区吉野から現在の大阪市北区大深町へ移転を行った。同時に 1 学年の定員を 60 名から 72 名へ変更した。平成 22 年度より 3 年制に移行、平成 25 年 4 月には夜間部（定員 36 名）を開設し今日に至っている。</p> <p>このように本校は 30 年以上の歴史を持ち、歯科医療業界にも多くの卒業生を輩出している。</p> <p>本校では、専門的な技術や知識を身に付ける傍ら、豊かな人間性を備えた人材を育成することに努め、社会で活躍しうる優れた医療人の養成を目指している。昼間部では必須となる科目の他にも、ロサンゼルスでの海外研修やマナー講座、コミュニケーション論、介護技術論、歯科診療保険事務といった幅広い講義を取り入れ、人間性の向上や多角的な視野を身に付けることに取り組んでいる。また夜間部では勤労学生へのサポート体制を取りながら、指導に当たっている。</p>	<p>本学校法人は「全国柔整鍼灸協同組合」が母体となり、柔道整復、はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧の施術を行っている臨床家たちが、自らの手で後継者を育てようという理念に基づき設立された。現在では柔道整復、鍼灸・歯科衛生士だけではなく、理学療法・作業療法など、健康維持や予防医学分野、そしてスポーツや介護・福祉の分野に着目し、それらの領域で必要とされる知識と技術を身につけた上で、優れた人間性を備え、次世代のリーダーとなりうる人材の育成を目指している。</p>

最終更新日付	2024 年 3 月 31 日	記載責任者	篠田 晃一
--------	-----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	医療人を養成する施設として、理念・目的・育成人材像は、わかりやすい表現で明確に定める。	本校の目的は、学則第1条に明記し、理事長・校長のメッセージとして分かりやすく解説している。	基本的な方向性は維持していくが、時代や社会の情勢も鑑みながら対応していく。	なにわ歯科衛生専門学校学則
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する歯科保健医療福祉関係団体等の人材ニーズに適合しているか	専門分野に関する歯科保健医療福祉関係団体等の情報を常に把握し、時代に即した歯科保健医療福祉関係団体等の人材ニーズに応じるための教育を行う。	医療機関・臨床現場でのニーズに関する情報を取り入れ、育成人材像を共有した上で、学校を運営している。	人物的にも技術的に優れ、様々なニーズに対応し得る医療人を養成する。	
1-1-3 理念等の達成に向けて特色ある教育活動に取り組んでいるか	理念等の達成に向けて、時代に即した特色ある教育活動に取り組む。	新しい技術や活動に携わるカリキュラムを取り入れ、教育を行っている。	新しい技術や活動に携わる教職員の養成を行い、教育活動に取り組む。	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	歯科保健医療福祉関係団体等の専門分野に対する社会のニーズならびに、外的・内的環境を把握し、専門分野の可能性を高める努力をする。	教育課程編成委員会にて、臨床現場での意見を取り入れ、常に歯科保健医療福祉関係団体等の動向を踏まえた教育の実践に努力している。	社会的なニーズを常に把握し情報を取り入れる体制づくりを進める。	なにわ歯科衛生専門学校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・目的・育成人材像について、明確に定め学内外に周知されている。	学校創設当初より現在に至るまで、教育理念等については変更なく引き継がれて、育成人物像については、適宜、社会のニーズに対応できるよう改善に取り組んでいる。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

基準2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営について、毎年度、学園全体として捉え、部門毎に事業計画書を作成し、理事会、評議員会の承認を得て、実施している。</p> <p>学校運営組織としては、毎月、学年毎による学年会議、主任以上の出席による運営会議、教職員による教務委員会を開催し、各部署での問題提起や円滑な運営を行っている。</p>	<p>各学年や教科担当、事務と教務間による連携を密にし、学生状況の把握や学校の運営に係る情報共有をすることにより、より質の高い教育の実践を目指している。</p>

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	理事会、評議員会において承認された事業計画、予算に基づき、運営する。	学園規則においては、社会の状況に応じ、理事会で常に整備を行っている。また、学園規則を受けた各部門の規程についても常に見直しを実施している。	現場での周知について、各会議の場での報告などを密にする。	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年度作成している事業計画書は理事会によって承認されており、この事業計画書によって学校運営方針は定められている。</p> <p>学校運営方針の校内への周知については常に会議や連絡を行い、全教職員が共有できるように努めている。</p>	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	年度毎に詳細な事業計画を定め、理事会、評議員会にて承認を得る。	毎年度、部門毎に事業計画書を作成し、理事会、評議員会において承認を受けている。	情勢に応じた計画案の作成と現場での周知を行う。	事業計画書 事業報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年度、部門毎における事業計画書ならびに事業報告書を作成している。 事業計画書は、理事会、評議員会において承認を受けている。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行ってい るか	学園理事会、評議員会において承認された組織規程、事業計画、予算に基づき、運営する。	毎年度、承認された組織規程、事業計画書に基づき、運営している。		事業計画書
2-4-2 学校運営のための組織を整備してい るか	学園理事会、評議員会において承認された事業計画について、毎年度公表する。	次年度の運営方針について、非常勤講師・実習施設担当者を含む教職員全員に事業計画を告知する。		事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年度作成している事業計画書は、理事会、評議員会において承認されており、この事業計画書によって当該年度の学校運営方針を定めている。	各部門（学校）に、理事より統括長を配置しており、学園全体における部門の役割を情報共有することができる組織となっている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<p>学校運営の状況を考慮し、法人本部において計画的に人員の確保及び配置を行う。</p> <p>学園の教職員給与規程に基づき適切に運用する。</p>	<p>学校運営の状況を考慮し、法人本部において人員の確保及び配置を行っている。</p> <p>学園の教職員給与規程に基づき、支給している。</p>		就業規則 教職員給与規程 教職員名簿

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事及び賃金に関する規程は、学校法人平成医療学園 専任教職員就業規則、非常勤者等就業規則および教職員給与規程で定め、整備している。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校法人平成医療学園寄附行為に基づき、理事会を中心とした意思決定システムを構築する。	学園においては、寄附行為及び事務分掌規程に基づき、意思決定の階層、権限を明確にしている。 学校においては、学則に基づき、意思決定を実施している。	意思決定の迅速化を図るためシステムの電子化を図る。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
起案は事業計画に基づいて各担当者が行い、各部署の決裁順序に従い決裁することにより意思決定を図っている。	各部門（学校）に、理事より統括長を配置することにより、学校運営に関する起案から決裁までについて迅速な対応が可能となっている。 また、グループセッションにて効率化を図る。

最終更新日付 2024年3月31日 記載責任者 篠田 晃一

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	ネットワーク構築により、業務の迅速化、効率化を図る。	管理システムや学校内でのネットワーク化の構築を進めしており、情報の共有、業務の効率化を図っている。	法人本部および各学校間での情報ネットワークの一元化。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業務の効率化を図るため、教職員全員にパソコンを配置し、学校内ネットワークを構築することで、情報共有や業務の効率化を図っている。	教育システム（データ処理・管理）の構築がまだ途上にあり、対応を進めている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

基準3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教務全体目標として教務委員会にて教育指針と毎年の目標を定め、医療を学ぶ姿勢や、身だしなみ、言葉遣い等の躾教育など歯科保健医療福祉関係団体等のニーズに応える社会人教育も行っている。</p> <p>教科担当者の意見を取り入れ、全教員が教育指針と目標を共有し、3年間での専門教育の達成を目指している。</p> <p>カリキュラムに関しては、「歯科衛生士学校養成所指定規則」、「歯科衛生士養成所指導ガイドライン」に基づき、指定単位数以上の講義を実施している。各歯科保健医療福祉関係団体等の動向を毎年度確認し、時流に沿った教育目標を定め、シラバスも随時年度前に作成を行う。これにより学習意欲向上と実践的な知識と技術が融合して将来の臨床の現場で応用力のある学生を育てることを目標としている。</p> <p>歯科医療のみならず医学界においても歯科衛生の業務範囲の広がりにより、歯科衛生士への期待と義務が課せられている中で、医学的な理論と臨床力を身に付けるとともに、患者にインフォームドコンセントが確実に行える信頼される医療人教育を目指す。国家試験合格率100%を目標とし、教務主任・担任を中心に1年次夏期から国家試験問題に慣れるため、スマホアプリ「国試対策net」を使用している。2年次では、スマホアプリの活用に加え、模擬試験結果を踏まえて学生の学習習熟度に応じた指導を実施している。また、授業アンケートを行い、結果を各教員へフィードバックしている。各教員は授業アンケート結果を踏まえ、質の高い授業の実施と教育内容の向上を図っている。</p>	<p>「歯科衛生士学校養成所指定規則」に規定されている選択科目については、教育内容の多様化と実践的臨床能力の育成を目的とした科目を設定し、保健・医療・福祉関係団体および歯科医療関連企業等から講師を招聘するなど、本校独自の工夫をしている。</p> <p>また、臨地実習については、保健・医療・福祉分野の活動の場を通して歯科衛生士として必要な知識・技能・態度を学修することを目的としているが、本校では、直接患者や地域住民と接することにより、患者・地域住民の全人的理解や医療の倫理観を培う重要な教育的役割を担っていると認識している。</p>

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者 中西 久美江
--------	------------	--------------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	歯科保健医療福祉関係団体等と連携を図ることにより歯科保健医療福祉に関するニーズを把握し、ニーズを踏まえて本校の教育課程編成ならびに実施方針を定める。	教育課程編成方針や実施方針を定めるに当たって、教育課程編成委員として歯科保健医療福祉関係団体関係者等を委嘱し、歯科保健医療福祉のニーズの的確な把握に努める。	学生個人が求めているディマンドと歯科保健医療福祉関係者が求めるニーズに差があることから、学生に真のニーズを理解・納得させ、学生の就学意欲を高めることが課題である。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学年毎に教育達成レベルを明確にし、教員と学生が共有することに達成を目指す。	授業担当者に対して、担当科目のシラバスに達成レベル明記を義務付け、シラバス配布により学生に周知する。	学生の理解度では実技の修得状況に個人差が見られる。学生の多様性を踏まえた対応が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>3 年間で歯科保健医療福祉関係団体等の求める人材ニーズレベルまで学生を教授することは困難である。限られた教育期間で、就業に必要な基礎的な知識・技術の修得を目指し教育課程を編成し、授業内容については、知識・技能の到達目標、評価基準を明示し、学生に公表することにより、学生の就学意欲を高める。</p> <p>歯科保健医療福祉関係団体等の求める人材ニーズレベルに対しては、学外実習などの活動を通して教授し、できる限り担保することを心掛ける。</p>	<p>学生は歯科衛生士として様々な活躍の現場は未経験であることから、学生個人の各項目に対する目標が抽象的となる傾向がある。本校では、様々な現場を疑似体験できるように、学内で学外実習の模擬実習を行い、より具体的な目標設定を自ら行うことができるようサポートしている。</p>

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	歯科保健医療福祉関係団体関係者等の外部役員並びに本校教職員から成る教育課程編成委員会を設置し、教育課程を編成する。	教育課程編成委員会での協議・決定された内容を基に、教育課程を編成する。	教育編成委員会から指摘された教育課程に対する問題点を解決する努力を継続する。	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	歯科保健医療福祉関係団体等や他施設の教員と積極的に意見交換を行い、教育内容に反映させる。	全国歯科衛生士教育協議会専任教員研修会や学会、学外活動への参加を奨励し、外部との接触機会を増やしている。	学外活動の参加に個人差がある。教員は研修会に参加し自己研鑽する必要がある。	全国歯科衛生士教育協議会専任教員研修会報告書 日本歯科衛生士会報告書
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	歯科衛生士として社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度を育てるという観点も踏まえて職業教育を実施する。	国家試験合格のみを目標とするのではなく、教員が臨床経験を踏まえた教育を実施することにより、卒業後を見据え即戦力になる教育を行う。	教員から見たニーズと学生のディマンドに乖離が認められることから、個別面談等の機会を活用して学生の要望等を把握する。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	各科目終了時に授業評価アンケートを実施し、各教員にフィードバックする。	授業評価アンケートを実施できている科目と実施できないない科目がある。	評価結果を教員個別に通知し、教員は改善策を検討する。全科目実施に努める。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程編成委員会により指摘された事項については優先順位を踏まえて改善していくとともに、結果を同委員会にフィードバックすることにより、教育方法の充実を図る。	

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・単位認定の基準については学則に規定し、入学時に学生に配布する便覧に記載することにより学生に周知する。	筆記試験・実技により成績評価を行っている。所定の出席数を満たし、学則に定める成績評価を獲得した科目のみ単位を認定する。	評価基準を便覧に明記しているが、学生の文章読解力が低いため、口頭にて説明する必要がある。	学生便覧 臨床実習必携

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、単位認定に関しては、本校規程に定めた通りに厳格に行われている。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	目標とする資格・免許は学則に明記し、教育課程上で明確に位置づける。	指定規則に規定された単位数以上の単位数を設定しており、さらに本校独自の学外実習を実施している。	介護職員初任者研修と歯科医療事務・ガイドヘルパーのどちらかの資格を習得出来るようにする。	なにわ歯科衛生専門学校学則
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	指定規則に則ったカリキュラムの内容で、国家資格取得のための授業を実施する。	2年次後半から国家試験対策を本格的に行い、3年次は臨床実習にて応用問題解決能力を高めるとともに、授業以外の講習会を聴講させている。	3年次の受験対策だけではなく、1年次から国家試験合格のための日々の積み重ねでの学習方法を実施するため、教育効率化が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
1年次から計画的に国家試験対策を実施している。学力不足や学習能力の低い学生には、担任による支援だけではなく、全専任教員が補習にあたっている。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	歯科衛生士学校養成所指定規則に定められた教員資格・要件を備えた教員を確保し、教育を実施する。	歯科衛生士学校養成所指定規則に定められた教員資格・要件を備えた教員を確保している。	教員退職時には広く人材を求めており、本校が求める教員志望者が少ない為、確保が困難な状況が継続している。	歯科衛生士学校養成所指定規則
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上を図るため、各種研修を教職員に周知するとともに、受講料等を本校が負担する等により、教職員が研修しやすい環境を整備する。	研修基準を設け、教員個人のキャリアアップだけではなく、学生へフィードバックできる研修について優先的に支援している。	研修実績を効果的・効率的に学生にフィードバックするためには、教員の働き方改革が求められている。	教育協議会専任養成講習会
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教務委員会（議長：校長）の下、各学年会議、教務ミーティングを組織する。	教務委員会、各学年会議、教務ミーティングにおいて、学生の状況、授業進行状況、国家試験対策、就職指導結果等の報告や課題の共有・解決を行っている。	会議の形骸化を防止し、会議で指摘された課題を効果的に解決することが課題である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員資格・要件を備えた教員、研修体制は確保されているが、臨床経験期間や教育経験期間にかなり差異があることから、経験豊富な教員と新人教員をペアにすることにより、新人教員の資質向上を図っている。	専任教員指定講習の全課程を修了し中堅教員として後進の指導者に育った教員が、結婚・産休・育休で第一線を長期離脱となることを考慮し、安定した教育体制の確保が今後の課題である。

基準4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>国家試験合格については、本校独自の国家試験対策で合格に結び付くようと考えているが、学生個々のレベル差が年々大きくなっているため、一層対応の工夫が必要である。そのため担任は学生のレベルに合わせて対応している。</p> <p>内面的な学生支援も必要と考えているが、学校としてどこまで踏み込んで支援できるのかは今後の課題である。</p> <p>不合格者へは学力の維持と精神的な面の両方から支援している。</p> <p>就職に関しての情報収集は卒業時点の状況を把握できているが、卒業後の状況は不十分である。効率的で確実な卒業後の情報収集の方法を模索中である。卒業時に学生には、状況連絡をしてもらうように指導しているものの卒業後の1~2ヶ月の情報がわかるのみで、卒業3年以上になると難しくなる。</p> <p>卒業生のほとんどが臨床現場で活躍していると思われるが、一部歯科保健医療機関等を離れた卒業生は把握できていない。</p> <p>進学については、希望者に対しては進路相談を行っている。</p> <p>卒業後も就職が決まっていない学生には、継続して指導を行っている。</p> <p>昼間部では、就職に有利な資格の修得を科目に導入している。</p>	<p>国家試験対策は入学後、学生生活に慣れた頃から開始している。学年の多様性を踏まえて担任が計画を立て、学習方法を変えて対策をしている。</p> <p>就職指導については、学生に対して希望アンケートを数回取り、アンケート結果を踏まえて個人面談を行なながら、本人が希望する条件で就職先が見つけられるように指導している。</p> <p>求人内容は、詳しく閲覧できるように担当者が資料をまとめ円滑な就職支援を行えるようにしている。医院紹介の資料があれば閲覧できるようにして情報を共有している。インターンシップなどの参加も勧めている。</p> <p>また、面接時の応対のみならず履歴書の書き方から、就職への心構え、立ち居振る舞い、身だしなみ、面接の化粧方法、礼儀まで全面サポートし、就職後すぐに離職しないように指導している。</p> <p>より広い分野のダブルライセンス制度を設け、歯科衛生士国家試験受験資格と併せて、介護職員初任者研修、ガイドヘルパー、歯科医療事務といった資格を修得することにより、介護の現場などとの多職種連携能力を身につけるよう指導している。</p>

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職率 100%を目標とする。	学生に対しては、就職完了まで支援を継続して行っている。「卒業生を囲む会」を実施し、昼間部 2 年次、昼夜間部 3 年次に学生が直接先輩に相談できる機会を設けている。	概ね就職はできているが、国家試験合格後に就職活動を行う事例が増加している。 就職希望先を早めに把握し、国家試験対策と並行して就職指導できるように対策を考える。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生には体験見学ができる機会を設け就職先の状況や環境を把握し、就職後も業務に対して夢や希望が持てることを企図している。 また卒業生に対しても就職先を紹介する体制を取っている。	卒業生が相談しやすい雰囲気作り環境整備をしている。 相談者には求人表票をいつでも閲覧できるようにしている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	国家試験合格率 100%を目指す。	国家試験合格率は、設立以来常に95%前後以上を達成できるよう心掛けている。 3年次の受験対策だけではなく、1年次から国家試験対策を意識して授業を実施する。	100%を目指すためには、学生の多様性を踏まえた指導体制を構築する必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験合格率100%を目標とし、全国平均前後の結果を残している。 合格率 100%を達成できるように、1年次から国家試験対策に取り組むとともに、学生個々の性格や生活環境を把握するよう心がけ、学生の多様性を踏まえて指導する。	国家試験に向けて学生の到達度に個人差があるため、到達度に応じて指導している。 各学生の苦手な分野を担任が把握し、学生ごとに目標を指導している。 規定時間内に全問題が解けるように問題を読み解く力をつけるように指導している。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	教育内容の改善という観点から、卒業生の動向について把握する。	同窓会組織と連携し、卒業生の状況を把握している。 卒業生が勤務している臨床実習視察時、同窓会主催の研修会等やその他の講習会などで <small>連絡を取っている</small>	臨床実習視察時、卒業生の来校時に情報を得ているが、歯科診療所等を離れた卒業生の状況を把握することは極めて困難である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生が勤務している臨床実習視察時、同窓会組織の情報から卒業生の活動状況を把握している。 全卒業生の就職先による評価は把握できていないが、把握できた卒業生については就職先から良い評価を頂いている。 また、歯科保健医療界を離れた卒業生の動向は把握しきれない状況である。	卒業生が勤務している臨床実習視察時や求人票本校卒業生の名前が記載されているとき、勤務状況を把握している。 すでに退職している場合には、その後を追跡することは困難となっている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の特徴である「学生との距離が近い教職員・教育」で最も重要視しているのが学生支援である。</p> <p>特に専門学校学生は高校卒業生から社会人経験者と年齢層も幅広く、人生経験もさまざまであり、その学生たちが同じ環境で学ぶには、より多くの意見や要望に耳を傾けることが必要である。</p> <p>成績不振者、経済的困窮者には、担任教員だけでなく多くの教職員が情報を共有し、学生から相談しやすい環境を整備している。</p> <p>経済的支援に関しては分納制度や奨学金、教育ローンの紹介や説明を行い就学意欲が高いにも関わらず経済的に学費未納となり退学、除籍とならないように支援体制を整えている。その一環で本校独自の特待生制度・学費支援制度も導入している。</p> <p>就職支援に関しては、担当者が学生の就職先希望を汲み取り、また歯科医療機関等からの求人情報を積極的に収集することに努めている。</p> <p>国家試験受験資格取得を最終目的とするのではなく、取得した資格を活かして社会貢献できるよう、希望に満ちた道を示し導くことも、学生支援の一つであると考えている。</p>	<p>開校以来担任制度を導入するとともに、担任教員だけでなく多くの教職員が情報を共有し、学生から相談しやすい環境を整備し、学生個人の学習および生活面の相談を受けることにより、学生が学生生活を有意義に過ごせるようしている。</p> <p>専門職として実技が不得意な学生や歯科臨床に不安に感じている学生には、入学後早い段階で歯科医院のアルバイトを勧めるなど歯科臨床に苦手意識を感じさせないように努めている。</p> <p>また卒業生に対しては、同窓会組織が卒後研修、講習会等を提供することにより、社会教育の場を提供している。</p>

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	学生が希望する進路に進めるよう、事前に進路希望のアンケート調査を数回実施し、それを参考に本校に寄せられた求人票から優先的に就職支援を行う。	担任が個別相談で学生の希望を把握し、学生の希望に合致する就職先があればその都度学生に声かけを行っている。 併せて「卒業生を囲む会」の開催など様々な支援を行っている。	求人票・資料については、施設の個人情報に配慮し、担当者がファイリングしたものを地域別に閲覧できるようにしているが、求人数が多いため学生を希望する求人を検索するのが困難である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任または教務主任が就職や希望内容の相談にのり、必要に応じてできる限り面談を行っている。また、「卒業生を囲む会」として卒業生を招き就職活動の心構えやアドバイスなどを受け、一定の成果と評価を得ている。	求人施設との連絡は担任が基本窓口となり、就職支援に求人誌施設に応じて面接時等のマナーや履歴書の記入方法などの指導も行っている。 インターネットの求人サイトや就職フェス等で個人的に活動する学生もいるが、学校への求人を優先するよう指導している。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	退学の前兆行動を早期に把握し、個別に声かけや面談等の対応をすることにより退学率を低減する。	体調不良、成績不振または学費の滞納などの学生に対して、速やかに面談や声かけを実施。学生の変化など教職員間でも情報を共有し状況の把握に努めている。	状況に応じて保護者に連絡を取り面談等の対応をしているが、保護者と連絡がスムーズに取れない場合や本人からの連絡がない場合は苦慮している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的な事由による退学は事務、体調や成績を理由とする退学は担任が窓口となり、退学に至るまでの早期段階で、教職員と学生がしっかりコミュニケーションを取り、退学を回避する方法を模索し、退学率の低減を図っている。	経済的、学力的な理由以外の者もある。家族や周囲の勧めで入学した学生や、資格取得に対するモチベーションが持続せず、就学意欲を失くす学生もいる。または新しい環境でコミュニケーションがうまくとれない学生等、専門学校教育の難しさを痛感している。また、退学に対し保護者が引き留めることもなく、家庭環境の複雑化や家計の問題などで退学せざるを得ないケースも増えている。 学生の多様性を踏まえ、学生本位の支援が課題となっている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	担任制により各学年を運営し、教務、事務との密接な連携体制を整えて学生の相談に臨むようにする。	担任や事務担当職員との密接な連携により個別に対応し、相談にのっている。 家庭環境に変化があった場合も同様。	学生間の人間関係に介入すべきか否かは状況により対応している。近年複雑化している家庭環境等の問題などは、状況を把握し個別に対応している。 精神的課題を有する学生には心理職が主体的に関わる体制を検討中である。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	国際化社会を考慮すると、検討も必要と考える。	現在、留学生の受け入れは行っている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生からの相談に対して教務（特に担任）と事務との連携をとり、情報共有を行って対応している。	教育内容、環境整備等についての要望収集のために学生に匿名でアンケートを行っている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	奨学金等の支援制度を学生に対して徹底するとともに、学生個々の状況に応じ適切な支援方法をその都度理解できるまでアドバイスする。	学費の分納や延納、入学時奨学金制度、日本学生支援機構奨学金制度等の説明会を開催するとともに、当該学生に対しては個別の説明を行っている。	奨学金を貸与されている学生が年々増加している。奨学金に対して認識が乏しい学生も増加傾向にあり、個別の相談に時間を惜しまず対応している。	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校保健安全法に基づき実施する健康診断結果、病気による欠席状況等を踏まえた健常管理体制を整備する。	学園グループ内の医療機関と連携し健康診断（歯科含む）を行ない、結果を踏まえて保健指導を行っている。 また、B型肝炎抗体検査やワクチン接種、インフルエンザ予防接種も実施している。	健康診断、各種抗体検査結果から、担任が個別で面談を行い、臨床実習に向けての指導を行い、再接種もさせている。 また、コロナワクチン接種を推奨しているが、全学生接種が課題である。	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	遠方からの通学者が少ないため、学生寮は所有せず、数社の学生マンション斡旋業者と提携し希望者に紹介する。 支援について要望があれば、可能な限り十分な支援を行う。	遠方からの通学者が少ないため、学生寮は所有せず、数社の学生マンション斡旋業者と提携し希望者に紹介するという支援にとどまっている。	本校は大阪駅にも近く近隣には学生マンションが多く存在しているが、不適切な業者に関わらないよう支援することが課題である。	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	状況に応じ今後検討する。	現在、課外活動は実施していない。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学びたい学生が学生らしく勉学に勤める環境整備に努めている。	夏冬休み等にも自主勉強者に教室を開放したり、担任が勉強のアドバイスをしたり、学生のレベルに合わせて課題を出したりしている。

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	未成年者の学生に限らず、保護者と密接に連携を取り、学生に対し早い段階でより良いサポートが出来るよう努める。	学費未納者、体調不良者、成績不良者については、保護者との連携の上、教職員が複数名で状況を共有し、対応している。 成人している学生においては、本人承諾を得て保護者との連携をとるなど家庭状況にも配慮している。	相談内容が増えて多様化している反面、保護者が就学状況を把握していないケースや非協力的なケースが増加し、保護者対応に苦慮している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者に入学式後の保護者向けオリエンテーションへの参加を強く依頼するとともに、オリエンテーション時に自宅学習の必要性、学費支援の協力をお願いしている。学費の未納者や体調不良者に対しては、早期に保護者と連携を取り、解決策を模索している。	状況によっては、複数回保護者に来校を求めている。地方出身者など来校が難しい場合は、電話・Zoomでの面談で連携を図っているが、早期に改善が必要な学生については必ず来校して貰えるように協力を求めている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	中西 久美江
--------	------------	-------	--------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	同窓会と連携し、適宜支援を行う。	同窓会事務局を校内に設置し、同窓会主催の卒業生の勉強会に施設提供するなど、キャリアアップや復職への支援を積極的に行っている。	卒業生の住所変更等に伴う連絡不通があり、情報が発信できない人数が年々増加している。昨年度よりHPを開設し、住所変更も可能となった。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	歯科保健医療福祉関係団体等団体ならびに同窓会組織等と連携して、卒業生の再教育の機会を積極的に提供する。	同窓会組織による講習会を年数回行っており同窓会が講師料を負担している。	今後は宝塚医療大学との連携も視野に入れ、卒業生の要望やニーズ、または復職支援に向けた内容も取り入れて今後も継続する。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	高校卒業後すぐに入学する者から社会人として職歴を持つ者まで多様な入学生に対応できる教育環境を整備する。	夜間部では、ほとんどの学生が社会人であることから、学生と担任がコミュニケーションを取りながら環境整備を図っている。	仕事と学業の両立ができるよう可能な限り協力し、学生にとって少しでも負担軽減になる様に配慮している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会組織と連携して卒業生への各種支援を行っている。 今後も歯科保健医療福祉関係団体等や社会のニーズに応える人材を養成できるよう、体制や環境整備を進める。	同窓会が主となって卒後講習会を行っている。

基準6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>校舎移転後13年、また校舎竣工から19年が経過し、老朽化対策が課題である。設備や器具等は相当年月使用しているものもあり、教育環境の快適さの改善、教育効率の改善などを優先して、設備投資を段階的に計画している。特に衛生面に配慮し、日々過ごしやすい環境を構築する。</p>	<p>海外研修（昼間部のみ）や学外での実習・研修など、バリエーション豊かな教育環境を提供している。 今後、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、社会状況に合わせて徐々に緩和している。</p>

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	施設・設備等は、教育に支障がないように整備を行う。また教育に必要な新しい設備は積極的に導入を検討する。	遠隔授業にて講義ができるよう、Wi-Fi環境を導入し、衛生面の環境整備として全館に便座除菌クリーナー、ディスペンサーの設置を行った。また、令和2年度にマネキン実習台を2台追加で設置した。	老朽化している設備については順次計画的に更新していく。また新規に教育用機器の導入も検討する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設備・備品等に年数を経ているものがあるため、教育環境の快適さの改善、効率の改善などを優先して、段階的・計画的に更新している。	引き続き、現状でまだ問題が見られる個所を点検した上で、順次見直す予定である。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	企業等と連携し、教育体制の整備を行う。	実習を中心に企業等との連携したカリキュラムを実践している。 昼間部については、毎年ロサンゼルスにて、現地大学での研修等を実施している。	現状、企業等との連携はできているが、その都度の情勢に合わせ内容を検討する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムとして実習の比重が大きいことから、企業等との連絡を密にしながら、内容を充実したものにする。	【昼間部】ロサンゼルスでの海外研修は、前身校の頃から長年の実績があり、3年次に全員参加にて実施している。現地大学での講義や実習、日系老人ホームへの訪問など、様々なプログラムで充実した内容となっている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	年に2回の消防用設備点検を実施し、災害に備えた保険にも加入する。 また防災体制を整え、災害発生時には速やかに対応する。	毎年学生を含めた消防訓練を実施し、災害発生時の行動等について指導している。教職員の災害時の役割分担についても周知を行っている。	災害時の備品について、整備を行う必要がある。	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	教職員全体へ安全体制について隨時周知を行う。 また、消防署や警察と連携し、学生の安全に配慮する。	学生全員が学生傷害保険に加入し、教育活動及び実習等における不慮の事故に備える。	管理体制についてのマニュアル化、学生への安全指導の実施。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
南海トラフ地震による津波など様々な災害が予測される状況であり、教職員全員が防災・安全管理に対する意識を持つようにしている。 また平成27年9月に大阪市指定の津波避難ビル登録を行った。	救急救命講習をカリキュラムに取り入れ、学生全員がAEDを取扱えるようにしている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

基準7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学試験の実施については、大阪府専修学校各種学校連合会の基準に基づいて実施している。</p> <p>学校案内については、在校生・卒業生のメッセージを多用すると共に、本校の特徴・カリキュラムや学校生活と歯科衛生士国家資格取得について、説明をしている。</p> <p>オープンキャンパスや個別見学を実施し、来校者に対して本校の特徴をよく理解して入学してもらえるように注力している。</p> <p>オープンキャンパスでは、学校説明や入試・学費説明はもちろん、在校生との体験実習（直接対話）を中心に、より学校生活を理解してもらえるよう積極的に会話をを行い、来校者との距離を近づけている。</p> <p>広報計画書を基に年間スケジュールが組まれており、若年層を中心に入学定員を下回らないよう、入試広報担当者を中心に教職員一丸となって取り組んでいる。</p>	<p>1.学生募集</p> <p>学校案内・学生募集要項・ホームページ・スマートフォン・進学情報媒体の活用や高校訪問・高校内ガイダンスに積極的に参加し、コミュニケーションツールの中で最も頻繁に利用されているLINEやTwitter、Instagram等のSNSにて、本校の特徴を伝える事に努めている。</p> <p>今後は丁寧に本校の特徴をアピールしていくと共に、今まで以上に情報提供し、職業の魅力をしっかりと伝えていく事が重要である。</p> <p>2.入学選考</p> <p>全ての受験生に対し、個人面接を行っている。合否は、入試判定会議により、公平に審査し決定している。</p> <p>また、高校進路指導部宛てに合否通知を郵送・訪問にて報告し、連携を図っている。次年度より、Web出願システムを導入予定としている。</p> <p>3.学納金</p> <p>3年間に必要な学納金や在学中に必要な諸経費、教材・教科書等の費用も詳しく提示し、情報提供を行っている。</p> <p>高校での日本学生支援機構奨学金の予約採用者が増加傾向にあるため、教育ローン等の情報提供をしていく事が必要と考えている。</p>

最終更新日付 2024年3月31日 記載責任者 篠田 晃一

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	教育機関が必要とする情報は、適切な方法で速やかに公開・提供する。	学校案内・学生募集要項やホームページ・スマートフォンにより情報公開し、必要であれば入試広報スタッフが訪問し、説明している。	高等学校への認知度を更に高める為に、高校訪問や高校内ガイダンスに積極的に参加している。	学校案内 学生募集要項 ホームページ スマートフォン媒体 SNS (LINE、Twitter、Instagram)
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	年間スケジュールを基に上半期、下半期に分けて学生募集活動を行っている。	就職率や本校の特徴を中心に、カリキュラム・入試・学費などの相談に対応できるようしている。	オープンキャンパス参加者からのアンケートを基に、より参加者が満足するように行っていきたい。	学校案内 学生募集要項 ホームページ スマートフォン媒体 SNS (LINE、Twitter、Instagram)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入試広報担当者を中心に、学校案内・学生募集要項・ホームページ・スマートフォン等で受験者・保護者及び高校進路指導部への情報提供を行っている。又、資料請求者からオープンキャンパスへの参加、出願、入学に至るまでの情報が一元化されている。今後、更に学校の認知度を高める入試広報活動を行っていきたい。	オープンキャンパスや個別見学者の来校数が増加している為、更に特徴のある体験実習（直接対話）を実施し、より丁寧に本校の特徴を伝える事で入学志願者を増やしていきたい。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	全ての入試において、複数の評価基準を設けており、公平な判断を行っている。	面接試験については、2名の面接官を配置し、入試判定会議にて、校長を中心に選考している。	面接試験を重視している為、今後も客観的な評価が出来る面接官の育成を続けていきたい。	面接評価票 入試判定会議資料
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	大阪府専修学校各種学校連合会の入試選抜基準に基づき実施している。	入試選考結果、ならびに受験者アンケート結果を運営会議ならびに教務委員会で報告し、今後の学校運営や教育内容に反映させている。	選考結果及び受験者から得た情報を的確に整備すると共に、改善すべき点は教務委員会等で決定し実施していきたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
校長、教務主任を中心に試験ごとに入試判定会議が開催される。適正かつ公平な基準のもとに行われている。	資料請求者や来校者が増えてきている為、学生募集システム管理を導入し、今まで以上に個人情報の取り扱いに留意している。次年度より、Web出願システムを導入予定としている。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	教育内容充実の観点を主体に、適切な額を算定している。	学生に対しての負担軽減策として、延納・分納制度を設けている。	今後、教育用資材が高騰した場合の対応について検討が必要である。	募集要項 ホームページ
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	辞退を受け付ける期限・連絡先、授業料等の返還については、募集要項に明記し、迅速な対応を行う。	辞退者は辞退届を提出し授業料等の返還手続きを行う。円滑に遂行できるように体制を整えている。		募集要項 ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
募集要項、ホームページを通じ、受験者または保護者に対しても分かりやすく情報提供ができるよう心掛けている。	受験者や学生にとって、奨学金制度を含めた学納金の情報が重要になっている為、今後も適切なアドバイスを行う。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

基準8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園としては、全体として学生数も増加し、安定した収入が見込まれる。</p> <p>宝塚医療大学の開学後、予算・収支計画についても、時間をかけて策定されることで妥当性は高まっていると考える。加えて、外部の公認会計監査も定期的に行い、財務情報公開についても、大学のホームページでの学園全体の事業報告書の公開により、実施できている。</p>	<p>学校会計基準の改正に伴う、会計処理及び計算書類の変更等に対応する必要がある。</p>

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	中長期的な学校の財務基盤の安定を第一に考える。	学園全体の帰属収入が消費支出を上回り、中長期的には安定要因が上回っている。	設備の老朽化による更新などで大きな支出が必要となってくるため、中期の構想に基づく財務計画が必要となる。	事業報告書
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握する。	主要な財務数値の推移は把握している。	財務数値の推移の把握だけでなく、経営分析への過程へと発展させることが必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園としては、一定数の学生を確保し、安定した収入が見込まれる。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	年度予算、中期計画は、目的目標に照らして、有効かつ妥当なものとする。	年度予算は有効で妥当なものとなっている。中期的な計画は見込んではいるが、より精度を高める必要がある。	4 半期ごと、半期ごとの確認作業で、修正・補正に対応する。	事業報告書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算は年度計画に基づき適切に執行する。	計画的に執行されている。 事業計画に基づく事業報告書を毎年度、理事会、評議員会に報告している。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算、収支計画は、理事会、評議員会で審議され、作成されている。 年度ごとの予算の執行内容は妥当である。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-30-1 私立学校法及び 寄附行為に基づき、適 切に監査を実施してい るか	財務について、会計監査が随 時適切に実施する。	会計監査は、監査法人による 審査と指導を受けている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法における財務情報公開の形式に準じて、財務情報を所定の形式で、学園の一部門として、宝塚医療大学のホームページにて公開している。	私立学校法における財務情報公開の形式に準じて、財務情報を所定の形式で、学園の一部門として、宝塚医療大学のホームページにて公開している。	本校のホームページからも容易に閲覧できるよう検討する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の財務情報について、学校法人のホームページにて公開している。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

基準9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専修学校設置基準、ならびに歯科衛生士学校養成所指定規則等の法令に基づき教育活動を行っている。また、加盟している全国歯科衛生士教育協議会等の倫理綱領に基づき、法令遵守の精神を教育に取り入れている。</p> <p>個人情報保護法に基づき、学生や企業等の情報の管理・取扱いを徹底とともに、学生や保護者に対しても説明の機会を設けている。</p>	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	関連する法令を遵守し、適切な学校運営を行う。	関連する法令を遵守し、適切な学校運営を行っている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令遵守は当然のことであり、教職員はもとより、学生に対しても指導を行っている。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	規程に基づき個人情報保護に取り組む。	保護対象となる情報の持ち出しは申請が必要であり、漏洩防止対策に努めている。 ネットセキュリティシステムについて見直しを行い、機器を導入した。	対策は取られているが、規程等を整備する必要がある。 またネット上での漏洩犯罪が巧妙化しており、常に対策を講じる必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護については、個人情報保護法の施行以来一層の厳格さが求められ、組織等からの情報漏えいについては社会的信用の失墜にもつながるため、厳重に管理を行っている。	セキュリティシステムを充実化させると共に、ネットやメディア媒体の取扱いについて職員に周知している。

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	文部科学省作成の学校評価ガイドラインに従い体制を整備し、評価を行う。	評価項目ごとの自己点検・評価を行い、取りまとめている。	体制が整ってきているが、今後も改善を行う必要がある。	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己点検・評価結果は、ホームページにて公開する。	評価項目ごとの自己点検・評価を行い、取りまとめたものをホームページに公開する。	取りまとめたものをホームページに公開する。	ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	文部科学省作成の学校評価ガイドラインに従い体制を整備し、評価を行う。	評価項目ごとの自己点検・評価を行い、取りまとめている。	体制が整ってきているが、今後も改善を行う必要がある。	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価結果をホームページに公開する。	評価項目ごとの自己点検・評価を行い、取りまとめたものをホームページに公開する。	取りまとめたものをホームページに公開する。	ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学校点検・評価項目について取りまとめているが、更に改善できるよう検討していく。	自己評価委員会、学校関係者評価委員会を更に充実させる。

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育に関する情報公開を学内外に対して積極的に行う。	学校案内やホームページにて情報を公開している。ホームページについては随時更新し、新しい情報を発信している。 また、学生・保護者に対しては、学生便覧（学則含む）の配布を行っている。	学生や入学希望者が求める情報や興味深い情報といった、ニーズに沿った内容を取り込むようにしていく。	学校案内 学生便覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校案内や学生便覧といった媒体の活用を行うとともに、ホームページを有効に使い、カリキュラムや特色を積極的に公開している。 入学志願者に対しても授業見学等は希望があれば随時受け付けている。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

基準 10　社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は地域医療の担い手を育成する教育機関であり、社会貢献・地域貢献への取り組みを積極的に行うべきだと考えている。</p> <p>教育内容としては、老人ホームや福祉施設での実習、近隣の幼稚園・小学校での歯科保健指導など、地域との繋がりを重視している。</p>	<p>歯科衛生分野として、近隣の老人ホーム・福祉施設・幼稚園・小学校などの実習を行っているが、今後更に地域に密着した講義や学外活動の展開を検討している。</p> <p>また昼間部では介護員初任者研修や歯科医療事務の資格取得カリキュラムも取り入れており、それらの資格が社会貢献に活かせるものと考えている。</p>

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	学校の資源を活かした社会貢献、地域貢献を積極的に行う。	近隣地域での歯科保健指導など、教育内容を展開することで地域貢献を行うようにしている。	今後も引き続き取り組むこととする。	
10-36-2 国際交流に取組んでいるか	諸外国の教育機関との交流や提携を行う。	【昼間部】毎年 3 年次のロサンゼルス研修にて、現地大学での講義や歯科衛生士・学生との交流、日系老人ホームへの訪問などを行っている。 また、中国の看護学生を数名招き、交流を始めたが、今年度は実施せず。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域での教育活動として、老人ホームや福祉施設での実習、近隣の幼稚園・小学校での歯科保健指導などを行い、地域との繋がりを重視している。 昼間部は、ロサンゼルス研修を通し、海外の歯科衛生士や学生との交流を行っている。	

最終更新日付	2024 年 3 月 31 日	記載責任者	篠田 晃一
--------	-----------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	ボランティア活動の機会を提供し、奨励支援していく。	現在、ボランティア活動は特に行っておらず、今後取り組むべき課題と考えている。	学校としての企画、学生への提示など体制を整え、学生が積極的に参加できる環境を形成する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティア活動については現状取り組めていないが、今後活動の場を作り、学生が積極的に参加できる環境を形成する。	

最終更新日付	2024年3月31日	記載責任者	篠田 晃一
--------	------------	-------	-------